

ご挨拶

2004年春から行われた馬場小室山遺跡の発掘調査は、開発業者との契約上のタイムリミットのために同年9月30日をもって終了となりました。しかし、現場の住宅地の下にはまだ調査がされないまま盛土遺構の核心部が残されています。また、調査区西側から運び出された土砂の中にも多くの土器石器が混じっていたこともわかりました。

馬場小室山遺跡での出来ごとを教訓とし、市民が文化財保護に関心をもって取り組んでいく姿勢を示すことは、大切だと考えます。さいたま市でも、一部残された市有地部分を市の文化財史跡に指定し、保全することとなりました。

2005年10月1日は調査終了の1周年に当たります。そこで、馬場小室山遺跡が史跡に指定されたことを記念し、文化遺産として継承する意義について考える「市民フォーラム」を計画しています。ぜひ、皆様にもお力ぞえいただきたくお願い申し上げます。

ばんばおむろやま

さいたま市 馬場小室山遺跡



2005.3.27 馬場小室山遺跡クリーンアップ作戦

「土地に住んでいる古くからの人は、皆、口を揃えて、あそこは土器が出る場所だといっている。まさに、そうなのである。土器だけでなく、縄文時代のいろいろな遺物が、異常に含まれているところなのである。誰の目にも、そこは古代の遺跡というように見えるのである。それこそ周知の埋蔵文化財包蔵地なのである。

余すところなく展開する遺構、厚い包含層、縄文文化後半の連続性、種々の遺物、特殊な遺物、保存の良さ、まわりの人たちの遺跡に対する関心など、この遺跡は、優秀な遺跡である。恵まれた遺跡である。未来に残していくべき遺跡である。子孫たちが、現状のまま受け継いでいきたいと期待されるであろう遺跡である。」

『馬場小室山遺跡』1984年刊 より

これまでに実行委員に なっていた方

たかし
大田 堯 様

さいたま市緑区にお住まいの大田先生に、実行委員長をお願いしました。先生は「市場経済が進み放っておけば人々がばらばらになっていく現代にあって、人が顔を合わせ、結びつきを持つことの意味は大きい。教育という視点から人の発達を考える時、有史以前の歴史は重い。」と、市民フォーラムの主旨に賛同してくださいました。

87歳の先生は、様々なテーマの集会を、ご自宅でも主催していらっしゃいます。東京大学名誉教授、元都留文科大学学長。

阿部芳郎 様

馬場小室山遺跡の発掘調査に立ち会った明治大学の阿部先生は、「この遺跡は後世のかく乱の少ない、とても保存のよい遺跡であった」との感想をお持ちです。著書の岩波ジュニア新書『縄文のくらしを掘る』のように、一般の方にわかりやすいかたちで、馬場小室山遺跡をめぐる縄文文化についてのシンポジウムをコーディネートしていただきます。

あなたも、ぜひ、実行委員になってサポートしてください。